

目 次

序 章	3
(一) 研究の現状と問題点	3
(二) 通説への疑問と論点	4
(三) 言語研究の立場と方法	5
(四) 語誌から言語の文化史・精神史へ	7
第一章 基本語とその複合語の語構成的意味論	9
(一) 「たま」「たましひ」「こころ」「きも」の基本義	9
(二) 「たましひ」「こころ」の複合語の意味世界	11
(三) 「たましひ」と「こころ」の関わり	16
第二章 「たま」「たましひ」の漢語と和語	18

(一)	漢語の古訓	18
(二)	古辞書の字訓	22
(三)	和歌・物語の和語	24
第三章 「大和魂」「大和心」の初出例の解釈		
(一)	「大和魂」(源氏物語少女卷)	27
(1)	古注釈書の解釈——「日本のめあかしのころ」	28
(2)	「やまと」を冠する表現意識・意味構造	30
(3)	世才・俗才説——近世後期に始る	33
(4)	世才・俗才説の支持と批判	34
(5)	文化と行動を生む指導精神——吉沢義則説	39
(6)	常識・理解力・自由な精神力——奥村伊久良説	41
(7)	現代の注釈書・訳書、古語・国語辞典の解釈	43
(8)	「やまとだましひの世に用ゐらるる」の考証	46
①	「世に用ゐらるる」の解釈——「使用」でなく「重用」	／
②	「女はただ心ばせよりこそ世に用ゐらるる」と同じ意味構造・発想	／
③	係結びによる強調表現の構文	
(9)	学問と心おきて・価値	50
(10)	才は大和魂の重用を補強するもの	52

(11) 大和魂が秀れた詩を生む	53
(二) 「大和心」(赤染衛門歌)……………	54
①日本人らしい精神力・気力・胆力／	
②日本人の持ち前の精神、心柄、心情	
(三) 和歌による大和魂の發揮……………	59
(1) 清少納言の応酬(枕草子)	59
(2) 藤原公任の「三船の誉れ」(大鏡)	63
(四) 国風文化と大和魂・大和心……………	64
第四章 外国の受容・理解……………	68
(二) 大和魂の翻訳語の語源・語義……………	68
(1) 英訳語・仏訳語	68
(2) 独訳語	70
(3) アニマティズムの捉へ方	71
(二) 源氏物語少女巻の翻訳とその日本語訳……………	72
(1) 翻訳書	73
(2) 書名と巻名の訳	73
(3) 大和魂の訳	74
(4) 当該部分の日本語訳	74

(5) 翻訳に対する私見 75

第五章 「大和魂」「大和心」の意味分類……………79

(二) 中古・中世の深化・分化……………79

①志向し道を開く根源の精神力／②胆力・胆勇ある行動力(「心だましひ」)

(二) 近世の拡大・発展……………90

(1) 文芸(小説) 91

①心情・感情・情緒／②気性・性根・義侠心／③精神力・決断力・気概／④忠義・忠信・忠孝・貞操

(2) 評論(国学者・儒学者) 95

①日本人らしい感情・心性・性情／②日本人としての心・見識・自覚／③皇位を護り、天皇に尽す心

(3) 辞書(国語・百科・和英) 117

(4) 大和魂と大和心の意義比較 118

第六章 本居宣長「大和心」歌の解釈……………122

(一) 桜のうるはしさから心のうるはしさへ……………123

(1) 前提となる桜観 123

(2) 本来の歌の意味 127

(二) わが国の道、日本人の心性……………128

(三) わが身の死を連想……………	131
第七章 「花は桜木、人は武士」の句の解釈……………	134
(一) 流布・意味の変化・構文的な意味……………	134
(二) 本居宣長「大和心」歌との関連——宣長以前か宣長以後か……………	136
(1) 「桜木」と「武士」を含む対句……………	136
(2) そのほかの対句、一句のみ……………	140
第八章 幕末維新期の新展開……………	146
(一) 国学者の評論・和歌……………	146
①直く正しく清い気性・性情／②天皇に誠を尽す真心／③武士としての義勇心……………	
(二) 孝明天皇の御製……………	157
(三) 勤皇家の和歌(抄)……………	159
①尊皇・忠義・尽国の精神／②日本人としての心・心情……………	
(四) 宣長「大和心」歌と「花は桜木」句の解釈……………	161
(五) 和魂洋才の萌芽……………	162
第九章 近現代の新発展・特化……………	169

(二) 明治・大正時代……………169

(1) 評論 169

①日本人の精神・民族精神——行動や感情を導く／②日本国の精神／③忠君愛国と国語の尊重

④国民の生命と心／⑤武士道・武道との関わり／⑥商業道徳との関わり

(2) 小説・記録・戯曲 190

①日本人としての精神・志／②強い志気と崇高な士気

(3) 和歌・詩 202

(イ) 御製・御歌 202

(ロ) 和歌・詩 208

①日本人としての精神・心情・気力／②天皇に忠義を尽す精神

(4) 宣長「大和心」歌の解釈 211

①国民性、国民意識、日本人の精神・理想／②忠義・忠烈の心

(5) 「花は桜木」句の残英 220

(6) 軍歌 222

①日本人としての精神・気魄／②忠義・愛国・尽国の精神

(7) 寮歌 226

(8) 唱歌 228

(9) 俗謡・琵琶歌 236

(10) 国語辞書 237

(二) 昭和前期時代……………241

(1) 評論・小説 241

①精神作用、精神行動を指示、まことの精神／②日本人らしい精神・感情／③和の精神、武の精神

④真実に生きる精神／⑤理想・信念を形成し、歴史・文化を創造する力／⑥文化・行動を生み、導く指導精

神／⑦能力の根源、日本的な文化の心、生活・文学を指導する精神／⑧常識、理解力、活潑で自由な日本精

神／⑨武勇心、慈悲心、人生に体现／⑩国家精神、国民精神／⑪生き方を決する意力

(2) 和歌・詩 258

(3) 宣長「大和心」歌の解釈 261

①淡泊、うるはしい心、気高さ／②日本精神の態度・象徴、気性、国民性／③自然、意気、諦念の融合／

④武士道、益良雄の心／⑤文武の合一した精神／⑥日本人として命を捧げる心

(4) 「花は桜木」句の残照 270

(5) 軍歌 272

(6) 国語辞書 276

第十章 敗戦を経て再出発……………286

(1) 評論 287

①才幹、能力、智謀、手腕／②日本・日本人の精神、感じ方、心の在り方、伝統精神／③日本を恋ふる心情

	④人間主義、人間性／	⑤教養と人間力・性情／	⑥日本人の民族性格／	⑦規範となる心持ち・態度、生きていく根源の力／	⑧心のはたらき、特に女の心ばせ、女ごころ／	⑨日本人としての感じ方・情緒・自覚・精神
	／	⑩まごとの心／	⑪思慮・判断の能力／	⑫日常・非常時に顕れる力		
(2)	和歌・歌謡	303				
(3)	宣長「大和心」歌の解釈	307				
	①桜の良さ、美しさ／	②自然と人生との調和／	③日本的な情緒／	④日本の心と魂／	⑤日本文化の個性	
	⑥清楚で潔い美／	⑦純粋な真心				
(4)	国語辞書	313				
第十一章	新しい活路を開いて再生へ	318				
(一)	造語による新たな発揚	318				
(1)	「一魂」	319				
(2)	士魂商才から商魂へ	323				
(3)	和魂和才・和魂洋芸・新和魂	326				
(4)	師魂教才・和魂電才	329				
(二)	スポーツ界での開花	331				
(1)	ヤマトダマシイ(ボクシング)	331				
(2)	なでしこジャパン・撫子魂(女子サッカー)	332				

終 章 大和魂・大和心の千年誌——あとがきに代へて——…………… 355

(1) 語義記述と意味変化…………… 356

(2) 意味の考へ方…………… 356

① 言語主体の捉へ方／② 語構成による意味……………

(3) 通説の批判…………… 357

① 解釈以前の問題／② 解釈に当たつての観点・視点……………

(4) 大和魂・大和心の意義…………… 360

(5) 魂と才の相違…………… 361

(3) サムライブルー・侍魂(男子サッカー)…………… 335

(4) 侍ジャパン(野球)…………… 336

(5) さくらジャパン・ほか…………… 337

(6) 大和魂(大相撲)…………… 338

(7) 桜戦士(ラクビー)…………… 339

(8) オリジナルの大和魂…………… 342

(9) 愛称の命名の発想…………… 343

(三) 芸能界での復活…………… 344

(四) サムライ・マインド、サムライ精神——新しい大和魂…………… 347

索引

(6) 和魂は根幹で、漢才は手段	362
(7) 大和魂・大和心の解釈の変遷	363
(8) 本居宣長「大和心」歌の解釈の変遷	367
(9) 「花は桜木、人は武士」の句の解釈の変遷	369
(10) 歌・語の命脈	370
(11) 内面の精神（知情意）から外面の活力の発現へ	371
(12) 大和魂は「指導的開頭精神」	372
(13) 言語文化史・言語精神史への展望	374
人名索引	375
書名・論文・曲名索引	381